



千歳セントラルロータークラブ Rotary International District 2510

発行 千歳セントラルロータークラブ 会長 彦坂忠人 / 副会長 菊池 孝 / 幹事 佐々木俊英 / 会報委員会 委員長 笹谷俊尚
〒066-8520 北海道千歳市本町 4 丁目 4 ホテルグランテラス千歳内 TEL・FAX.0123-26-5788 Mail.membership-office@ccrc.jp
HP. http://www.ccrc.jp Facebook. http://www.facebook.com/chitosecentral

会長あいさつ 会長 彦坂 忠人

こんにちは。今年度第 27 回例会です。先週は他団体の毎年の恒例行事に参加し、例会を欠席致しました。ご迷惑をお掛けしたことに対し、お詫び申し上げます。



さて、ここ最近の気温は、年明け早々の時期から比べるとかなり穏やかになってきておりますが、しかし朝晩は寒い日が続いております。今年のこの現象は気候変動ではなく、異常気象と言うそうであります。

異常気象と気候変動の違いは、例えば昨年猛暑では、9月の平均気温が平年より4.6度高い20.5度だった旭川はじめ、道内22の主要観測地点すべての平均気温が過去最高を記録した例が異常気象、一方、気候変動は過去30年間の平均気温の平年値が変わること、例えば、札幌の9月平均気温は1910年当時の平均値からみると、100年間で2.1度上昇したとしたこの違いを言うそうであります。

従いまして、地球温暖化は着実に進行し、農業王国、北海道の行末が極めて心配になるところでありまして、今日の新聞に、「温暖化は農業に追い風か逆風か」としたテーマの記述がありました。道立総合研究機構中央農業試験場、中辻敏朗研究員らによる研究結果が発表されておりました。掻い摘んで言うと、2030年代の予測値を基に、気温は現在より1.8度上昇、降水量で1.2倍増加、日射量は15%減少となり、その結果、作物ではコメが量、質ともに増加、小麦と馬鈴薯は逆に量、質ともに低下、大豆、小豆、ビートについて収量は増加するも品質が低下するとした予測をしております。

このことは、ローターとは直接関係しませんが、しかし、先日のアルジェリアでのテロ事件始め、偶発的な事故、異常現象といった様々な案件が最近多くなっております。そうしたことに対して適切な判断と行動が伴う様、日頃から必要な情報を入手し、即応対応が可能となるべくローター

で研鑽したいと考えております。本日はローター情報委員会の担当例会です。意義ある例会になりますことを期待し、開会の挨拶と致します。

例会出席状況 (2013年1月29日)	
会員数	36名
会員出席者数	24名
欠席者数 (内:無断欠席)	12 (5)名
出席率 (前回例会)	66.66 (61.11) %
ゲスト・ビジター出席者数	0名
出席者数総計	24名

で研鑽したいと考えております。本日はローター情報委員会の担当例会です。意義ある例会になりますことを期待し、開会の挨拶と致します。

幹事報告 幹事 佐々木 俊英

- 国際ローター第2510地区安孫子建雄がバナーエレクトよりアメリカ サンディエゴで開催されている国際協議会に参加されているとの報告を葉書で頂きました。2013-14年度の国際ローターのテーマ「ローターを実践しみんなに豊かな人生を」が決定されました。
- 千歳工業クラブより新年交礼会出席のお礼状が届いています。
- 千歳市交通安全運動推進委員会より機関紙「ゆつくり走ろう北海道」が届いています。
- 東京ロータークラブ所属(株)熊平製作所 会長 熊平雅人様より冊子「抜萃のつづり」が届きました。

各委員会報告・連絡

RI 第 2510 地区国際奉仕委員会 副委員長 田口 廣
国際奉仕委員会で支援している「福島キッズ in キャンプ 北海道」の第 3 弾、「福島キッズ in さっぽろ雪まつり」で 2 月 1 日、福島空港から 20:40 着で子供達が新千歳空港にやって参ります。地区のほうから子供たちの出迎えをお願いされています。メー



ルで再度皆さんにご案内をします。幾人でも参加して頂ければと思っています。お迎えして記念撮影をすることになると思います。もし集まって頂ければ、早い時間に空港で職業奉仕という事で、今井会員の店で食事でもしたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

ローターアクト・新世代奉仕委員会 委員長 坂井 治
千歳のローターアクトクラブが表彰されることになりました。



後ほど、詳細をメールしてもらいますのでメモを取らずに聞いて頂ければと思います。

第 49 回千歳市社会福祉大会におきまして、千歳ローターアクトクラブ

が社会福祉功労表彰ということで今までのボランティア活動が認められて表彰されることになりました。是非お時間のある方は顔を出して頂いて拍手だけでもして頂ければ有難いと思います。どうぞ宜しくお願い致します。

○ 日時：2 月 16 日 (土) 13:00~14:00

○ 場所：千歳市民文化センター 中ホール

ニコニコ BOX

進行：出席・ニコニコ箱委員会 委員長 今井 章夫

彦坂 忠人 会員：欠席してしまいました m(__)m

井上 英幸 会員：先週欠席しました。

羽芝 涼一 会員：1 月初めての出席です。3 回連続の欠席申し訳ありません。

本日のニコニコ BOX 合計額	17,000 円
今年度 累計額	541,000 円



本日のプログラム

通常例会「クラブ合併は必要なのか？」

担当/ローター情報委員会 委員長 白木 松敏

皆さんのお手元にローターの友 9 月号“同論・異論”のコピー資料をお配りしています。今日はこの資料を中心に進めたいと思います。「ク



ラブの合併は必要なのか？」というテーマです。皆さんもいろいろご意見があると思いますが、この問いかけに対し、私共のクラブ、または周辺

のクラブで必ず将来話さなければならない、あるいは進めなければならない場面があると私は感じています。今日は数名の方にそれぞれのご意見を頂きます。宜しくお願いします。

高塚 信和 会員

ご案内のように、合併は必要かどうかという話がありました。皆様方のお手元の資料にもいろいろな意見が書いてありますが、あまりにも恰好のいい意見ばかりのような気がします。実際、昨年全国で合併されたクラブ数は 68 クラブだそうです。日本全国に 34 の地区がありますが、第 2530 地区 (福島) は 68 クラブ所属しており、それに匹敵するような内容です。実際、その後の運営が上手いっているかどうかですが、その後の運営について投稿して現状がどうか知らせる必要性があると思います。人員が足りないということはあるでしょう。何かしようとしても数が少ないので何も出来ない。また人員が少ないと資金力も少ないので何も出来ないという事になります。

国際的には日本も 10 年前には 13 万人の会員がおりました。現在は 8 万 9 千人で 4 万数千人が減少しています。私共、第 2510 地区でも以前は 4,300 人ほどおりましたが現在は 2,600 人、隣の第 2500 地区も 3,500 名ほどでしたが、2,200 名と極端に減っています。いろいろなことあるかと思いますが、年代的に高齢な方が亡くなり、バブルショックで経済的に余裕がないため会費を支払うことが出来ないということからクラブを去って行かれた方もいるでしょう。手続要覧では 25 名の会員を擁して初めてロータークラブの位置付けとするという事になっていますが、第 2510 地区第 7 グループをみても、千歳、恵庭、千歳セントラルだけが満たしています。長沼、北広島、由仁等は 20 名を完全に切っている形です。その中で、国際ローターもいろいろ考えています。新しい息吹のあるちょうど青年会議所を卒業されたぐらいの方が、一番柔軟で良いのではないかと思います。そのような動きになるのではないかと思います。しかし、例えば我がクラブと千歳ローター



クラブが合併するという事は、皆さんどう考えてもあわないと思います。いつも挨拶をしています、一緒にのクラブ同士となるとどうも違和感を覚えると思います。逆に恵庭ロータークラブのようなあまり交流の無いところへ行くと、良いのかもしれない。知っているところと合併するとお互いに我が儘が出て上手くいかないのではないのでしょうか。

国際ローターも変わってきています。「ローターの綱領」は「ローターの目的」に、「奉仕の理想」は「奉仕の理念」に変わります。英語表記は変わっていませんが、綱領が難しい為、日本語を優しい言葉に代えています。ローターの友 1 月号をご覧になると書いてあります。国際的には変わっていますが、年度がありますので今は継続しておりますが、次年度から変わってくると思います。現在、研修に参加されているガバナーエレクトは、これらについての厳しい指導を受けているのではないかと思います。

補助金の問題もこれまではアナハイムに申請書を出して地区を通して行っていました、これからは地区でやりたい事業があれば地区に申請し、認可されると、地区資金の中からお金が出ることになっています。これも次年度からの新しい方向性です。昔は考えられない事でしたが、今は地域、地域にあった事をより進めようという動きです。

我々がいつも訴えていた地域に対して公共性に訴えようという事が、やっと目的の中に入ってきました。目的は公共性のイメージを高めてローター活動をしよう、地域にローターを知らしめようという考え方がこれで浸透してくるのではないかと思います。それぞれの項目がありますが、ローターの友を見ると書いてあります。4つの目的を新たに書き出して、難しい言葉ではなく、もっと平たく訳した日本語でやっていくという事です。ローターもそれだけ変わってきています。

ローターでは増強の事も言っていますが、増強は誰でもいいという事ではなくて、もっと若い人を選んで欲しいという事も書かれています。私のような 70 代になって頭が固くなった人間は、ローターの活動には非常に難しい。私は割と頭は柔らかい方だと思いますが、全国では 70~80 代は

若い人が発言しても、それは駄目だというような風潮がありました。今度は、若い世代にもう少し登場してもらって、若い息吹を作り上げて、ローターの活性化を図ろうという事ではないかと思えます。

最初に話した合併ということですが、皆さんの身近に見てもなかなか難しいことだと思います。松前のクラブは 3~5 名程で活動していて、地区も止むを得ずクラブを存続しているという苦しい感じの体制になっています。地区だけでなく、全国でもそのような流れにあるのではないかと思います。

1990 年に創られた我がクラブですが、37 名でスタートして一時は 54 名が在籍、現在は 36 名でいたい創立時の人員を擁しています。もともと大きいクラブが大変な様相を呈しています。地区でもそうですが、他のクラブでも大変な事があるのではないかと思います。以上、ありがとうございました。

田口 廣 会員

白木委員長より一週間前に話をするよう依頼され、いろいろ調べてきた数字を高塚会員にすべて言っていたので、これで終わりますと言っていいくらいです。真面目に電話を掛けたりして調べてきました。私は 1992 年、創立して 2 年目に入会しました。当初、和田会員が会長でした。入会した時は 38 名がいて例会も賑やかでした。時代も 1990 年創立時はバブル絶頂期でなかったかと思えます。私が入会したころは少々陰りがみえてきていましたが、それでもまだまだ余韻が残っていて例会にも勢いがありました。と言って今、例会に勢いがないわけではなく、内容も充実していると思います。千歳ロータークラブを何度か訪問した時も当初は 110 名位メンバーがいたそうです。多い時は 120 名、現在は 53 名ということで非常に寂しいですと、事務の方が言っていました。何度かお邪魔した時も、例会場が熱気でのめりこまれてしまうような雰囲気がありました。今はなにかひっそりしていました。高齢化に伴ってそうなるのかと思いました。当クラブでもチャーターメンバーは 8



名いらっやいます。まだまだお若くてバイタリティーがあって留まる事を知らずに突き進んでいらっやいます。

そこで今日のテーマ、合併ということですが、私の考えは増強しているうちは、合併する必要はないと思います。現在 36 名ですが、これがもし 20 名近くなっても活動出来ない事はない。それなりの活動でいい訳です。先程、高塚会員も話していましたが、合併はまだ先の事でいい、ただ選択肢は必要かなと思います。私もいろいろなクラブを訪問していますが、11 名のクラブも一桁のクラブもあります。それはそれなりに皆さん一生懸命やっているわけです。事業が出来ない、会費が集まらないので大きなことが出来ないということがありますが、特長を生かして活動をしていけばいいわけであって、私はまだ選択肢の一つとしてこのまま進んでいってもいいのではないかと思います。何れにしても時代の流れは 1990 年バブル絶頂期で 92 年頃から破綻、崩壊し、96 年に阪神大震災、オウム事件が起こり、拓銀破たん、そして GDP が 1.5%と戦後最悪となります。また、02 年同時多発テロ、小泉政権でのいざなぎ景気と良いことがない。経済的に厳しくなっている、そこへサブプライムローン、リーマンショック、そして 11 年の東日本大震災と決して良い状況には向かっていない。これは日本だけではなく、世界的な傾向があります。たまたま昨日、JRA の会議に出席しましたが、日本の経済と全く同じ推移で売上げが移行しているという事でした。世の中の景気が悪いと当然馬券も売れません。安倍首相もいろいろ言っていますが、構想だけに終わらないようになんとかいい方向に行ってもらいたいと思います。

実際、ロータークラブ、ライオンズクラブ等いろいろな団体があります。私が役員で所属している軽種馬という馬の方でも、胆振地区で 120 件生産牧場がありましたが、昨日現在、59 件と丁度半分になってしまいました。このような時に奉仕活動団体が増えるかというと思いません。まずは皆さんが出来る範囲の事でやっていくのが最大の選択肢ではないかと思いません。その後、合併などをすることは選択肢の一つではないかと思いません。高塚会員が言われたことが正論でないかと思いません。私の考えていることは以上ですが、与えられた職務、国際奉仕を全うしていきたいと思いません。合併という問題は長い期間で考えなければならぬ、今日明日で結論を出す問題ではないと思いません。

高木 昌人 会員

クラブ合併は必要なのかというお題を頂きました。入会してまだ半年の私には何を話していいか非常に困る事ですが、白木委員長が取って、私に発言の機会を授けて頂いたことには何か意図、思惑があるのではないかと勝手に組んで、ここは修練だと思って思い切って、今のお二方よりはるかに

拙い知識と正直な感触の中で率直な意見を申し上げてみたいと思いますので、宜しくお願いいたします。

そもそもクラブ合併があるというのも初めて聞いたものですから背景に何があるのかと察してみました。会員数が激減する状況でクラブの運営の維持が危ぶまれている。そんな中でその対応策として大まかに 3 つあるそうです。

1 つ目は先の例会で DVD の中でもご紹介がありましたが、とにかく会員増強、会員拡大によって何とかクラブを維持していくこと。

2 つ目は、今日のテーマであります同じ苦しい状況にあるクラブ同士で合併をして困難を乗り越えていく。

3 つ目はあえなく解散ということもあるそうです。その 3 つについて優先順位を考えながらその必要度合いを検討してみたいと思います。

語弊を恐れず申し上げますと、まだまだ昨年 8 月入会して間もない私にとって、ここにいらっやる先輩の皆さんよりクラブに対する愛着が薄いと思います。奉仕の活動はクラブに所属していなくても決して出来ないわけではないと思います。本人の意志、信念さえしっかりしていればロータリアンであろうかとなかろうと、それほど重要なものではないのではとしたりもしています。ただ、個人の成長、人は人によって磨かれ、切磋琢磨して高めあっていくという部分では、本来の奉仕という部分から懸け離れた分野になるかもしれませんが、自身の成長という意味で、徒党を組むといつては語弊があるかもしれませんが、こうして皆さんと一緒に活動をするというのは、とても有益な環境であると思っています。ですから、先ほど申し上げました 3 つの選択肢の中、解散というのは一番後回しの手段であると考えます。残り 2 つですが、個人の成長という問題で考えると、会員拡大に費やすエネルギーに比べると合併によって、また多くのメンバーと出会うことで親睦も深め視野も広がるということは、私はボキャブラリーが乏しいので卑しい表現になりますが、手取り早く個人の成長につながるのではと考えています。

ここからは憶測で申し上げますが、先の話にありましたように、クラブの創立には並々ならぬご苦労があったかと思いま



す。チャーターメンバーによって、その地域によってしかない理由があって初めてそこに新たなクラブが創立されたと思います。創立主旨というようなものがあつたのではないかと思います。クラブ同士が合併をすることによって、その純度が少なからず薄れてしまうのではないかと思います。同様に名前も変わるわけです。やはり既存のメンバーにとっては合併することによって、そのクラブへの愛着が薄れてしまうのではないかと考えます。

もう 1 つは、個人の考えで言うと手っ取り早く仲間が増えるというのは、非常に安易で合理的な工作かと思いますが、国際ローターという大枠で考えると、合併はクラブ数が減少するわけですからスケールメリットは少なくとも損なわれるのではないかと思います。

今日のテーマ「クラブ合併は必要なのか？」という部分で、私なりにお答えしますと、クラブの合併は必ずしも必要とは思わないが、解散をするぐらいなら、苦肉の策としてあり得るのではないのでしょうか。というところで意見とさせて頂きたいと思います。まだまだ拙い経験の中です。クラブを運営するにあたって最低限の固定経費もあると思いますし、メンバー数と会費のバランスを何とかとって頂いている先輩方のご苦勞もあるかと思いますが、何もわからない中で、とにかく言ってみようという委員長の思惑があつたかと思つたので、思い切ってこのような意見を述べさせて頂きました。ありがとうございました。

—— 白木委員長

クラブ創立以来、合併についてのテーマで話をしたのは初めてです。将来、必ずこういうことが来ると思います。今のうちに皆で合併という言葉を経験しながら、活動していきたいと思っています。では、松坂会員お願いします。

松坂 敏之 会員

なかなか難しい合併ということについてのシミュレーションだと思っています。こういうシミュレーションが与えられるという事は、とても現実的でもあり、これからひょっとしたら起こるかもしれないという事を頭に置いていくという事は、とても良い事なのかなと思っています。

基本的には、合併することによるメリット、デメリットは必ずあります。そういう意味では、はっきりと両者を比較してメリットの方が多ければ当然、やるべきだという話になるかと思っています。

その前にロータークラブでなくても全国的、世界的にこういつた組織、協業組合、宗教などの組織が全体的に沈滞化しているのは事実です。私が組織している薬事業界についても非常に沈滞化してきています。なぜかという、会員数が少なくなり、会費がなかなか入らなくなる。そしてモチベーションが落ちてくる。逆作用、逆作用が働きます。



逆にあまりないのですが、会員数が増えて、そのことに対して皆さんが一生懸命考える。そして会費が集まると良い方にスパイラルが回っていきます。今は少なくとも、会員減少という逆スパイラルの中で、我々は考えていかなければならないのかと思います。経済等が影響しているのではと蔽います。ただ、基本的には会員それぞれの価値観、自分がクラブに入っている価値観が大きくなり小さくなります。価値観の無い者が会員を誘ってくることはありません。自分が好きなクラブであれば、それだけ仲間を広げようという気持ちが多くなる。私たちの気持ち、ローターに対する価値観が即ち会員増強に繋がって、良い事業に繋がっていくのではないかと。素敵な事業をすると、それに伴ってモチベーションもあがり会員も増え、そうすれば再編成の心配をしなくても良いのかなと思います。いずれにしても私たちの気持ち次第でどうにでもなるという気持ちでいます。

正直に申し上げますと、気持ちはそうですが現実的にはなかなか難しい問題があります。

ここでいえる事は、第 2520 地区 (岩手、宮城)、第 2530 地区 (福島) を見ますと、確かに会員数は減少していますが、ローターがなくなっている様子はありません。これは即ち、そのローターがなければならぬ危機感が、アメリカのローター創始の時と同じような事が起こっているのではないかという気がします。困った時に何とかしようという気持ちがローターの原点ですので、我々ももっと危機感を持って取り組むことによって良いローターになるのかなと思います。合併を考えなくても良いのではないかと思います。

また、規模の大きさというものがあろうかと思っています。適切な規模であれば、比較的、民主的に皆さんの意見を聞きながら事業が出来ます。大きくなれば、社会的認知は出来るかもしれませんが、個人の意見は通りにくくなるのかなと思います。

こういう機会に合併などを考える事で次のローター活動に繋がっていくのではないかと思い、発言させて頂きました。有難うございました。

——白木委員長

只今、4 名の方にご所見を頂きました。先ほど高塚会員から若手という言葉が何度も発言されていました。本日の発表者に高木会員に登場して頂いた理由は、そこにあります。入会間もない方からの要望、意見を発表して頂きたいとの思いからお願いしました。時間がございますのでご意見を発表されたい方はお願いします。

会長 彦坂 忠人

私は入会してから 5 年ぐらしか経っていませんが、我々の立場とチャーターメンバー、古くから活動されている方の考え方とは相当違いがあると思います。その考え方ですと、千歳セントラルロータークラブはずっとこのクラブであってほしいという思いが強いと思います。私はそうは思いません。やはり、この千歳全体、あるいはこれからの事を考えると、小さな町ですから、何れは一つになって欲しいという気持ちはあります。それは可能だと思いますが、しかし、今の段階では高塚会員が話したように絶対無理だと思います。入会して千歳ロータークラブともいろいろな関わりを持たせて頂いて、行動、考え方を聞かせてもらうと、体質的に相当の違いがあります。ですから、今の段階で合併を議論してもお互いに出来ないという事になると思います。

我々はそういう体質の違いを理解してもらって、白木委員長、高木会員も話したように、若い人に期待するというのは、そういう事だと思います。そういった感覚、感情を将来的にお互いに持たないクラブになって、その上で 1 つになっていく、何れはそうあって欲しいと思います。

私が会長になってから、千歳ロータークラブとの交流事業を考えてみたいと思いましたが、これも今の段階では非常に難しい内容がございます。それほど体質の違いがあります。高木会員にもそういったことを理解して頂いて、これから違いをなくしていくような方向になって欲しいと思います。



次回例会案内

次回例会は、2 月 5 日、通常例会「クラブ協議会」です。

担当は理事会、開会点鐘 12:30、定例会場です。例会開始時間が変更になっていますので、お間違えのないようご出席願います。

SCHEDULE

2 月	2 月は、 世界理解月間 です。ローター創立記念・世界理解と平和の日(2 月 23 日)、雪見酒	
	5 日	第 15 回理事会 午前 11 時 事務局
		通常例会「クラブ協議会/事業所紹介」[担当/理事会] ※例会開始時刻変更
		次年度 第 1 回理事会 例会終了後、例会場
12 日	通常例会「社会奉仕、次年度の展望」[担当/会長エレクト]	
19 日	第 16 回理事会 午後 5 時 Lien2 階	
	親睦夜間例会 ☺「雪見酒 in THE BELLCLASSIC Lien 3 階」[担当/親睦活動委員会(古木委員長)] ※例会場変更	
	通常例会「国際奉仕プロジェクト 検証ツアー報告」[担当/国際奉仕委員会(田口委員長)]	
26 日	通常例会「国際奉仕プロジェクト 検証ツアー報告」[担当/国際奉仕委員会(田口委員長)]	
3 月	3 月は、 識字率向上月間 です。IM、会長エレクトセミナー	
	5 日	通常夜間例会「クラブ協議会」[担当/理事会]
	9-10 日	第 2510 地区 会長エレクトセミナー (江別市)
	11 日	移動例会「東日本大震災支援事業」[担当/理事会]
	17 日	第 7 グループ IM (千歳 RC)
	19 日	親睦夜間例会 ☺「未定」[担当/親睦活動委員会(古木委員長)]
26 日	通常例会「未定」[担当/会員増強・維持委員会(羽生委員長)]	
4 月	4 月は、 ローター雑誌月間 です。地区協議会	
	2 日	通常夜間例会「クラブ協議会」[担当/理事会]
	9 日	通常例会「未定」[担当/SAA 委員会]
	14 日	第 2510 地区 地区協議会 (岩見沢:平安閣)
	16 日	親睦夜間例会 ☺「未定」[担当/親睦活動委員会(古木委員長)]
	23 日	通常例会「清掃奉仕活動」[担当/社会奉仕委員会]
	30 日	休会 (月末)
5 月	7 日	休会 (GW)
	14 日	通常夜間例会「クラブ協議会/次年度方針と概要」[担当/次年度理事会]
	21 日	親睦夜間例会 ☺「未定」[担当/親睦活動委員会(古木委員長)]
	28 日	通常例会「未定」[担当/友好クラブ委員会]
6 月	4 日	通常夜間例会「クラブ協議会」[担当/次年度理事会]
	11 日	通常例会「活動報告① 各理事」[担当/副幹事]
	18 日	通常例会「活動報告② 各担当委員長」[担当/副幹事]
	25 日	親睦夜間例会 ☺「2012-13 年度最終例会」[担当/親睦活動委員会(古木委員長)]